



子どもたちから感謝の絵

中国大地震復興支援で日赤が学校再建 四川省綿陽市



日本から支援を寄せてくれた皆さんへのプレゼントとして瓦子小学校の子どもたちが描いた絵

「今回は日本人達が私たちを助けてくれた。今度は、私たちが困っている人を助けてあげられるようにしたい」
— 中国四川省綿陽市の瓦子小学校では、いま日本赤十字社の支援で校舎再建の工事が進められています。300人の児童たちはこうした目標を胸に、今年12月の完成を心待ちにしています。

昨年5月の中国大地震。綿陽市周辺も激しい揺れに襲われました。瓦子小学校の運動場にいた児童たちは、立っていることができず、揺れがおさまるまで、地面にはいつくばって耐えたといっています。幸い児童に死者は出ませんでした。だが、校舎は使えなくなってしまういました。



瓦子小学校に通う双子の姉妹

地震後、仮設のプレハブ校舎ができましたが、夏には室温が40度を超えるなど、環境はよくありません。そこで日赤支援による新校舎の建設が決まり、4月には鉄入れ式が行われ、工事も7月から始まりました。

4年生の双子姉妹、何玉瓊さんと玉玲さんは「日本の赤十字と日本人達に感謝して

「アニメや漫画でしか日本を知らなかったけど、これからは日本のことを勉強したい」と話します。
訪問した際には、3年生の児童たちから絵がプレゼントされました。地震で倒れなかった木を、飛んできた鳥が励ましている図柄です。日赤と日本人たちが瓦子小学校を支援してくれている姿をイメージして描かれたものです。

写真展 被災地での笑顔を横浜で



瓦子小学校の子どもたちの笑顔とメッセージなどを展示する写真展「MERRY in YOKOHAMA」が横浜みなとみらいで8月31日まで開催中です。写真展はMERRY PROJECT(代表

水谷孝次氏)・日赤・JICAの共催。中国、スマトラ島の日赤復興支援の事業地を、水谷氏が取材したものです。会場では日赤の支援事業の内容も写真で紹介されます。